

# 市長報告

令和7年第4回古河市議会定例会の開催にあたり、古河市の主要な施策及び事業の執行状況等について、ご報告いたします。

## (はじめに)

先般の臨時国会において、自由民主党の高市早苗総裁が第104代内閣総理大臣に指名され、高市内閣が発足いたしました。女性の参政権獲得から80年という節目を迎える年に、初の女性総理が誕生したことは、歴史的な意義を持つ出来事です。高市内閣では所信表明演説において、「強い経済」の構築を目指し、戦略的な財政出動を通じて、所得の増加や事業収益の向上、税収の増加という好循環を実現する方針が示されました。地方が抱える課題を解決するには、国と連携した取組が必要です。本市としても、国の動向を常に注視しながら、的確に情報収集を行い、物価高対策や地方創生をはじめとする各種施策に、引き続き積極的に取り組んでまいります。

それでは、第2次古河市総合計画の施策体系に沿って、主要な施策等の実施状況及び進捗状況について、ご報告させていただきます。

## 1 市民協働について

在住外国人の増加に伴い、地域が抱える様々な課題の解決に向けて、県市長会及び町村会に「外国人との共生に関する特別委員会」が設置され、現在、関係自治体が連携して調査研究を進めています。また、外国人との共生に関する国の方針や施策の明確化、自治体への支援拡充等に向けた要望活動の準備も進めています。本市としても、「古河市多文化共生推進指針」に基づき、外国人との秩序ある共生社会の実現に向けた施策を推進します。

10月19日に、お休み処坂長及び古河歴史博物館周辺を会場に「出城ノモリみんなのMarket」を開催し、約3,500人が来場しました。企画・運営は「出城ノモリ Project」のワークショップ参加者が担当し、官民が連携して、古河駅西口エリアの景観形成重点地区を魅力的な場所とする取組を行いました。

10月24日から25日にかけて、古河市行政自治会視察研修を実施しました。福島県白河市の「一般社団法人未来の準備室」を研修先として訪問し、持続可能な自治組織の運営に向けた取組や役員の負担軽減策について学びました。若者世代の参加促進や自治会業務のデジタル化に関するお話を伺い、今後の自治会や行政区の運営に役立つ多くの知見を得ることができました。

11月7日に「令和7年度ワーク・ライフ・バランス研修」を実施し、市民をはじめ100人が参加しました。本研修では、事前に先進的な取組を行う市内企業を訪問・取材した学生5名による成果発表が行われました。学生たちは取材を通じて得た具体的な内容や学びを発表し、参加者に

市内企業の取組を紹介しました。研修を通じて参加者が企業の取組への理解を深めるとともに、学生にとっても成果を発信する貴重な場となりました。

「日本一、動画の上手なまち」を目指し、昨年度に引き続き「こがでくらすと動画スクール」を開催しました。延べ約 50 人の市民が動画制作のポイントや技術を学び、実際に動画を作成した後、各自の YouTube や Instagram に投稿しました。参加者それぞれが感じる古河の魅力が詰まった作品が数多く完成し、市の魅力発信に寄与しました。

## 2 健康福祉について

子どもの居場所づくりについて、支援事業の受託事業者を公募型プロポーザル方式により選定しました。本事業では、コーディネーターを中心居場所運営者や地域の理解者、ボランティア等がつながるネットワークを形成し、子どもが家庭以外にも安心して過ごせる複数の居場所を持つよう、地域全体に支援の輪を広げていきます。

子どもの意見表明について、10 月からインターネットを活用した意見募集を開始しました。また、私自身が古河第二高等学校を訪問し、生徒から様々な考えや意見を直接伺う機会を得ました。いただいたご意見も参考にしながら、子どもの最善を考え、これを実現するための施策を推進していきます。

今年度から新たに、一部公費負担による骨粗しょう症検診を開始しました。今年度は 11 月に集団検診を実施した結果、838 人が受診しました。今後も、各種検診を通じて、市民の生涯にわたる健康づくりを支援します。

歯周病が心臓病や糖尿病、認知症等の健康に深く関わることから、11月9日に、保健医療学博士で歯科衛生士の稻垣貴恵氏を講師に迎え、「おうちの健康からはじめる からだ元気アップセミナー」を開催し、80人が参加しました。講演では、歯周病が全身疾患に及ぼす影響等が紹介され、参加者にとって「口腔ケア」の重要性を改めて認識する機会となりました。

11月30日に、共和電設とねみドリ館にて「合併20周年記念 Koga インクルーシブフェスティバル」を開催しました。障がいのある方による作品展示や、障がい者スポーツの体験コーナー等を実施し、約1,000人が参加しました。本イベントを通じ、市民の障がいに関する理解を深めるとともに、障がいのある方の社会参加を促進していきます。

### 3 教育文化について

(仮称)古河市新公会堂の整備については、9月に市民の意向を反映した基本構想・基本計画を策定しました。本構想・計画では、「だれもが気軽に文化芸術を体感し、表現できる空間と、次世代への機会の創出」を目指す姿に掲げ、大ホール等の施設概要や建設候補地を示しています。

11月に、学校再編の基本的な考え方を示した「古河市小中学校適正規模・適正配置の基本方針」を策定しました。また、学校教育の現状について地域の皆さんに理解を深めていただくため、リーフレットを市民へ配布しました。時代の変化に対応した持続可能な教育環境を整備し、児童生徒が健やかに成長できるよう、スピード感を持って学校再編に取り組みます。

11月3日に、古河市イーエス中央運動公園にて「合併20周年記念スپ

「一つフェスタ古河 2025」を開催し、延べ約 1 万 5 千人が参加しました。トップアスリートをゲストに迎え、参加者に 47 の競技種目を体験していただきました。本イベントは、スポーツを通じて健康増進を促す機会となりました。

11 月 14 日に、野本電設工業コスマスプラザにて「人権について考える会」を開催しました。当日は、児童生徒による人権尊重社会に向けた作文発表が行われ、また「日本に暮らす外国人家族と支援」をテーマに、東洋大学教授・南野奈津子氏に講演いただきました。参加者にとって、人権問題への理解を深める貴重な機会となりました。

現在、「合併 20 周年記念古河市民文化祭」を開催中です。市民参加の文化活動を通じて、文化芸術への関心が高まり、文化活動がさらに活性化することを期待しています。

また、古河文学館では、巡回企画展「生誕 100 年 永井路子展」を開催しています。故・永井路子先生の生涯をたどりつつ、永井文学の魅力を紹介していますので、ぜひご来館ください。

総合地域交流センターは、来年 3 月の開館を目指して工事を進めています。愛称募集には 585 件の応募が寄せられ、「ふくろうの森プラザ」に決定しました。また、ネーミングライツの募集を行い、現在は優先候補者の審査を進めています。市民に親しまれる施設を目指して、運営していきます。

この秋から電子図書館が開館し、いつでも・どこでも電子書籍を読むことができるようになりました。また、オンラインでの利用登録やスマートフォンでの利用カード機能がはじめました。より便利で身近な読書環

境が整備されたので、ぜひご利用ください。

#### 4 産業労働について

東山田・谷貝地区の未来産業用地開発事業では、現在、北側拡張エリアへの進出企業を募集しています。魅力ある雇用を創出し、若い世代の転出防止や移住・定住の促進を図り、力強い地域経済の形成に努めます。

「古河サークル」の活動では、9月13日に市内で活躍する創業者3名を講師に招き、創業セミナーを開催しました。セミナーには26名が参加し、講師のうち2名は女性で、女性創業者の経験についても学ぶことができる貴重な機会となりました。また、来年2月には、茨城県よろず支援拠点と協働し、市内の事業承継経験者を講師に招いたセミナーを開催する予定です。持続可能な地域経済の実現を目指し、今後も創業や事業承継の支援に積極的に取り組みます。

11月13日の県民の日に、トモエ乳業株式会社及び日野自動車株式会社の工場見学を実施しました。市内の小学校4年生から6年生までの児童とその保護者18名が参加し、地域の工場を見学することで、児童が地元産業の魅力を感じ、将来の職業について考えるきっかけとなりました。

10月から今月にかけて、「古河三大秋祭り」や「古河提灯竿もみまつり」が盛大に開催され、多くの来場者で賑わいました。来年も古河のまちが活気にあふれることを願っています。

市内の優れた产品を認証する「古河ブランド」に、今年度は新たに7品が加わりました。「常陸牛 牛肉まん」をはじめ、いずれも地域を代表する優れた产品であり、本市の魅力発信に寄与することを期待しています。

## 5 生活環境について

渡良瀬遊水地では近年、イノシシの生息数が約 1,000 頭に急増し、農作物や人的被害に加え、堤防の掘り返しによる治水機能の低下等が懸念されています。そのため、10 月 14 日に遊水地周辺の 4 市 2 町が連携して国へ総合的な支援を求める要望書を提出しました。今後も自治体間で協力し、対策を進めます。

9 月 6 日と 7 日に、ショッピングセンターあかやま JOY にて「下水道マンホールふた展」を開催し、計 971 人が来場しました。マンホールカードや下水道に関する冊子を配布し、社会を支える下水道への理解と関心を深めていただきました。

9 月 23 日から 30 日までの「秋の全国交通安全運動」では、古河第一高等学校の生徒にもご協力いただき、交通安全街頭キャンペーンを実施しました。本運動では、歩行者の安全確保や自転車のヘルメット着用を重点項目とし、交通安全意識の向上を図りました。

カーボンニュートラルを推進するには企業の参画が不可欠であることから、10 月 24 日に三桜工業株式会社が開催したサプライヤー向け説明会において、国と連携して普及啓発を行いました。企業の取組の輪を広げ、その活動を支援することで、地域全体でのカーボンニュートラルの推進を目指します。

## 6 都市基盤について

災害に強く、利便性の高い道路ネットワークの形成を目指し、筑西幹線道路及び国道 354 号古河境バイパスの整備促進について、県への要望活動を実施しました。また、水害対策の一環として、利根川及び渡良瀬川の堤防強化並びに渡良瀬遊水地の治水機能向上について国へ、女沼川の整備促進について県へ、それぞれ要望活動を実施しました。国・県と連携しながらインフラ整備を着実に進めることで、市民の安心・安全を守ります。

古河駅東部土地区画整理事業地内に国が整備した古河労働総合庁舎において、11月 25 日にハローワーク古河が、12月 1 日に古河労働基準監督署が開業しました。同地内の都市計画道路西牛谷辺見線については、来年 3 月の全線開通を目指して、引き続き工事を進めます。

仁連地区工業団地の市街化区域編入について、10月 9 日に住民説明会を実施しました。今後は、来年 9 月の都市計画決定を目指し、手続きを進めます。

公園施設の計画的な維持修繕を目的に、古河公方公園と古河市イーエス中央運動公園の長寿命化計画を策定しています。予防保全を計画的に進めることで、施設の長寿命化を図るとともに、トータルコストの削減と平準化を目指します。

「バスの乗り方ガイドブック」を作成し、市内の小中学生と高校生に配布しました。このガイドブックでは、バスの乗り方やマナーを分かりやすく紹介しており、地域公共交通の維持に向けて公共交通機関の利用促進を図っています。

## 7 行財政について

本市は、9月12日に合併から20年を迎えました。10月4日には野本電設工業コスモスプラザにて「古河市合併20周年記念式典」を開催し、新たな飛躍を内外に示すとともに、未来への一歩を踏み出しました。また、式典では、本市出身の俳優・井上高志氏を新たな「古河大使」に委嘱しました。今後はその知名度を活かし、本市のPR活動を推進していただけるものと期待しています。

11月8日から9日にかけて、本市の合併20周年を記念し、大野市から石山市長をはじめ市民46名が姉妹都市交流ツアーで本市を訪れました。訪問団の皆さんには篆刻体験や工場見学を通じて、本市の歴史・文化や産業について理解を深めていただきました。また、古河青年会議所が開催したスカイランタンイベントもお楽しみいただき、両市の交流をさらに深める機会となりました。

日本郵便株式会社の協力により、合併20周年記念オリジナルフレーム切手が郵便局で販売されています。この切手は、市の名産品や観光資源等をデザインしたもので、500シート限定です。ぜひ手に取って本市の魅力をお楽しみください。

(むすびに)

これから年度末を迎える、各施策や事業も最終段階を迎える時期となつております。また、令和8年度に向けて進行中の実施計画の策定や当初予算編成も、大詰めを迎えております。これまでの取組を精査し、さらなる成長を目指して、未来への挑戦を力強く進めてまいります。

つきましては、市政運営に対し、議員各位をはじめ市民の皆さまのご理解とご協力を心よりお願い申し上げ、市長報告とさせていただきます。

令和7年12月9日

古河市長 針 谷 力